

平成18年
第2回定例会

所信表明

今年度は市長改選の年に当たり、当初予算は義務的、経常的経費などを中心とした言わば骨格予算でした。それに今回の補正予算で投資的経費や政策的経費などを追加し、予算の肉付けを行ったところです。

この議会では、補正予算などの審議に先立ち、市長が市政方針を表明し、本年度の市の方向性を示しました。

伊万里市の元気を さらに大きく 元気をつくる 5つのエネルギー政策

わたしは先の市長選挙におきまして、無投票当選という形で、引き続き2期目の市政運営の舵取りを任せていただきました。これは、市民本位を基調とした『さわやか市政』の流れをこのまま続けて欲しいという市民の皆様の熱い期待のあらわれと受け止めており、それ故に責任の重大さを痛感し、身が引き締まる思いがいたしております。いま一度初心に立ち返り、さらなる伊万里市の発展のために全身全霊で取り組もうと決意を新たにいたしているところです。

伊万里市長

塚部 芳和

Yoshikazu Tsukabe

(市政運営の考え方)

本市においては、財政の健全化を最重要課題としてとらえ、一昨年に財政健全化計画を策定して効率的な財政運営に努めてきたところですが、現状は予想以上に深刻な状況にあり、徹底した事務事業の見直しをはじめ、市民との協働による新たな公共サービスとの仕組みの構築など、市民の目線に立ったさらなる改革を推進していく必要があります。

一方、社会資本の整備では、この4年間、厳しい財政状況にはありましたが、長年の懸案であった駅周辺やファミリーパーク整備などの大型プロジェクトをはじめ、各町での地域に根ざした事業などについても、一定の進捗をみる事ができました。

また、様々な分野での多種多様なまちづくり活動に市民との協働あるいは市民主体の取り組みが浸透し、定着を見せていることは大変心強いものがありますし、全国レベルでの情報発信となる明るい話題も多く、伊万里市の活力を内外に広める事ができたところです。

最近では、これまでのインフラ整備や企業誘致活動などの努力が実を結び、新たな企業の進出やIC関連企業の大規模な事業拡張が決定したほか、美術館の誘致も実現の運びとなるなど、市民の積極的なまちづくり活動に加えて、市勢発展の大きな原動力となる民間による経済活動を活



用する取り組みも成果を得ようとしているところです。

わたしは、このような伊万里市の元気をさらに大きくしていくため、引き続き市民本位、市民との協働を基調にした『さわやか市政』を貫く考えですが、今回市政を担わせていただくにあたり、2つの軸を市政の舵取りの指針にしたいと考えています。

一つは、将来の伊万里市全体をどう発展させていくか、いわば未来志向型の伊万里市づくりとも言うべき大きな視点であり、もう一つは市内の各町、地域において、子どもからお年よりまで市民のだれもが暮らしやすさを実感できるような、それぞれの地域でのキメ細かな配慮のある伊万里市づくりです。

また、今回の市長選挙で示しました政策実行計画（マニフェスト）では、『伊万里市の元気をつくる5つのエネルギー政策』として、具体的な80の元気施策を掲げているところであり、市民の皆さんが愛着と誇りを持つことのできる『住みたいまち』、さらには訪れる人が魅力を感じる『行きたいまち』をめざして、職員一丸となつて取り組みます。

以上、2期目の市政を担うにあたって基本的な考え方を述べましたが、次に主要な施策を政策実行計画（マニフェスト）に掲げた5つのエネルギー政策に沿って説明します。